# 枝川のとうもろこしのよさを しょうかいする広告を作ろう！

発行
令和４年２月 21 日
中部教育事務所

**授業者　神﨑嵯也教諭（いの町立枝川小学校）**

**単元**　第４学年　広告を読みくらべよう
（東京書籍４上）

**単元計画**（全６時間）

第１次　１時　学習課題を確かめ、単元の見通しを立てる。

第２次　**枝川のとうもろこしのよさを紹介する広告を作るために、教科書教材の二つの広告に書かれている言葉や写真を読み比べ、それぞれの広告の意味や目的、誰に対して作られたのかを考える。**

２時　広告１と２を読み比べ、異なる部分を捉える。

３時　二つの広告の写真の選び方や色の使い方の違いを捉え、表にまとめる。

**本時**　４時　二つの広告のキャッチコピーや商品の特徴の説明に着目し、表現の効果を捉え、作り手の意図や目的を考える。

５時　二つの広告の事柄の事例（レイアウト）について、作り手の意図や目的を考える。

第３次　６時　（広告の作成は、総合的な学習の時間に行う）
総合的な学習の時間で取り組んできた内容と関連させ、枝川のとうもろこしを紹介する広告を作り、意図や目的を紹介し合う。

**本単元で身に付けさせたい資質・能力**

**知識及び技能　（2）イ　情報の整理**

◇比較や分類の仕方を理解し使うこと。

**思考力・判断力・表現力等　C読むこと（１）オ　考えの形成**

◇文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。

**本時で達成したい目標**

◇二つの広告に書かれている言葉の違いに着目し、表現の効果を捉えて作り手の意図や目的を考えることができる。

## 授業の概要

とうもろこしのよさを紹介する広告を作るために、二つの広告に書かれている言葉の違いに着目し、伝えたい相手によって、説明の仕方や選ぶ言葉が異なることに気付き、書き手の意図や目的を考える。

## 本時の展開

| 学習活動 | 指導上の留意点 |
|---|---|
| **1　本時の課題をつかむ。**<br>広告１と２に書かれている言葉に着目するために、それぞれの広告から言葉の異なる部分を見付け、なぜ違うのかを考える見通しをもつ。 | ・単元のゴールを示す。<br>・広告に書かれている「特徴を表す言葉」が異なる部分に線を引くように促し、作り手の意図に着目できるようにする。<br>（「高齢者」「子どもがいやがらず」「あっという間」など） |
| **2　異なる部分（言葉）に線を引き、表にまとめる。** | ・異なる部分を表にまとめる活動を取り入れ、違いを焦点化させることで、それぞれの広告にどうしてその言葉が使われているのかという疑問をもたせる。 |
| **3　商品の特徴の説明の違いについて、表現の効果や意図を考える。<br>１つずつ違いを見ていく。** | ・一つ一つの項目に絞ることで、違いを考えやすいようにする。<br>・「どうして書いてある言葉が違うのだろう」「～という言葉は、どうして使われているのだろう」と投げかけることで、言葉のもつ意味や働きについて、深く考えさせる。<br>・「みんなはこんなことなかった？」と自分の経験に立ち返るように促し、理由が想起しやすいようにする。 |
| **4　学習を振り返る。** | ・今日の学習を通してできるようになったことや今後のとうもろこしの広告づくりに生かせられそうなことを記述させる。 |

## 授業研究会のポイント

### ① 国語科で付けた力をどう生かすのか

**教材研究会での提案**

**導入**　自分たちにとって身近なものである、ランドセルの広告を見て、表現の仕方の違いに興味をもち、広告の書かれ方について学ぶことへの関心をもつ。

**ゴール**　単元末に、付けた力を生かして広告評論会をおこなう。その後、単元で付けた力を生かして、学級活動の時間に、就学時健康診断で来られる新一年生の保護者の方に、「こんな学校に子どもを入学させたい！」と思ってもらえるような、枝川小のよさを紹介する広告を作る。

**Before**　子どもたちが「自分ごと」として活動できる単元の工夫が必要

**After**

**授業研究会での提案**

総合的な学習の時間に地元の特産物を調べる学習の「まとめ・表現」の過程で、一人一人が伝えたい相手を決め、相手に応じた言葉や表現を使って、枝川のとうもろこしを紹介する広告を作る。

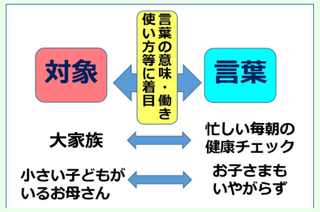
本単元で身に付けた、意図や目的に応じた表現の工夫や効果の違いを読み取る力を、実生活に生きて働く力にするために、どのように単元の初めに子どもたちを出合わせるのか、どういった単元ゴールが効果的か。教材研究会での提案は、上記のようなものであった。協議の中で、「子どもの身近なことを題材にする、工夫されたものであったが、就学時健康診断で渡す広告は、あまり自分事にならないのでは」という意見が出された。そこで、神﨑教諭は再検討をし、総合的な学習の時間で取り組んでいる枝川の特産物を調べる活動の「まとめ・表現」の過程で、調べたことを発信する方法として広告を取り入れることにした。本単元で身に付けた力を生かし、それぞれが伝えたい相手を決め、相手に応じた言葉や表現を使って広告を作るという、単元の改善をおこなった。

枝川地区では、とうもろこしの栽培がさかんで、毎年６月のこの時期に「きび街道」としてゆでとうもろこしを販売するお店が立ち並ぶ。総合的な学習の時間で、実際にお店に買いに行き、茹でたてのとうもろこしを食べて、「このおいしさを伝えたい！」という思いを強くすることで、子どもたちは広告に書きたい「言葉」や「おいしさ」について表現のイメージを湧かせていた。

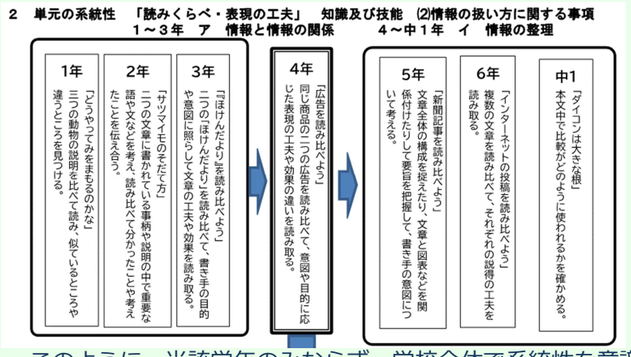
「話す・聞く」「書く」の領域では、国語科だけで完結しようとすると、授業時数も限られているので子どもが本気で、自分事として取り組めるような活動にするには難しい。他教科等と関連付けることで、国語科の学習が「生きて働く力」となる。また、国語科で付けた力を他教科等で発揮する場面をできるだけ短いスパンで連動させ、「国語の力が役に立った」と実感させることも重要である。

### ②言葉による「見方・考え方」を働かせるとは

国語科の学習で、学びの深まりの鍵となるのが、「言葉による見方・考え方」を働かせることである。授業の中で、神﨑教諭は子どもの根拠が漠然とした思いや考えに対して、「そのことって、どの言葉から分かるの？」「相手にこの言葉を使うことでどんなことを伝えたいの？」などと言葉を意識させる働きかけをしていた。そうすることで、広告の中に書かれている、書き手の意図をもった文章や言葉に着目し、「『お子さまもいやがらず』という言葉は、小さい子どもがいるお母さんに、子どもがいややってならないように、すぐに終わらせることをアピールしていると思う」などと、読み手を意識し、ここでこの言葉が使われている意味や働きを考えている姿が見られた。




### ③単元の系統性を意識した指導




枝川小学校の指導案には、その単元の重点指導事項の系統表（今回は、「知識及び技能」(2) 情報の扱い方に関する事項　イ情報の整理）が掲げてある。この系統表を明示することで、

○子どもの学びの履歴を確認することができる。

○次の年に繋げるために、本単元で何を押さえるべきなのか明確に共有することができる。

というよさがある。本単元で言うと、前年の子どもたちは、「『ほけんだより』を読みくらべよう」の単元で、書き手の文章の書き表し方の工夫を読み取っている。事柄の取り上げ方は既習であるので、今回は、様々な視点から表し方の違いを読み取らせる必要性が分かる。

このように、当該学年のみならず、学校全体で系統性を意識した指導を継続していくことが大切である。